

親子や家族で漢字学習を楽しむ

日本の場合、国語力をつけるには、漢字力をつけることがとりわけ重要です。にもかかわらず、学校では、国語科の授業時間が削減されるとともに、その授業内容にも“漢字に力点を置いた基礎固め”といった視点は見られず、このままでは漢字力・国語力をきちんと培うことができるとはとうてい期待できません。その結果、「教科書がまともに読めない」子供を相も変わらず輩出することになり、そして全体的な学力は地滑りのように低下していくことになるのです。

学校にも、経営上テストの点数にこだわらざるをえない塾にも、漢字力・国語力の真の向上を目指す学習はいまのままで望めないでしょう。再三再四述べてきたように、小学校低学年までの漢字教育・国語教育は、まずは親の役割だと自覚して取り組んだほうがよいでしょう。

そこで、役立てていただきたいのが、石井式漢字教育法です。家庭で毎日、十分間でも二十分間でも、親子で、あるいは家族で、漢字学習を楽しんでください。「楽しむこと」が成功の秘訣です。

それには、“漢字は楽しいもの”であり、“本を読むのは面白いもの”であることを教えるのが、最大の目的であることを忘れないことです。

石井式漢字教育の具体的な方法については、先の章で紹介した内容を参考にさせていただきたいと思いますが、ここで、最初に取り掛かる際の方法を簡単にまとめておきます。

身のまわりのものの名前を漢字にする

家の中にある電話、時計、植木鉢、魔法瓶、冷蔵庫、窓、壁、扉など、子供が日ごろからよく目にしているものに、その名前を漢字で書いた紙を貼ります。そして、会話の中で、「電話が鳴っているけど、だれからかしらね」「冷蔵庫におやつが入っているわよ」という具合に、できるだけ漢字を意識させるように指差しながら話します。

何度もくり返しているうちに、子供は、「これは電話って読むんだ」「冷蔵庫って読むんだ」と自然と覚えてしまいます。親が何度も、指差しながら読みあげることが大事で、貼りっぱなしでは、あまり効果は期待できません。

漢字カードを作る

まず、ボール紙のようなやや厚めの紙を、トランプより一回り大きなサイズに切って、カードを作ります。ここに、漢字を大きくはっきりと書きます。

カードに書く漢字は、子供にとって身近なものや、興味・関心をもっているものを選ぶようにします。「お父さん」「お母さん」「お兄ちゃん」「お姉ちゃん」など家族の呼称、「晴れ」「曇り」「雨」「雪」など天気に関するもの、「ご飯」「牛乳」「玉葱」「大根」「苺」「林檎」など日常食卓にのぼるもの、「目」「鼻」「口」「耳」「手」「足」など体の部位、「猫」「犬」「馬」「猿」「象」など動物の名前、「桜」「菜の花」「百合」「薔薇」など花の名前というように、何でも結構です。

漢字カードができたら、カードを見せながら、最初にお母さんがはっきりと声をあげて読み、つづいて、子供に声を出して読ませます。

記憶に留めようとして、カードをじっくり見せる必要はありません。長く見せると、かえって集中力が散漫になってしまいます。始めは一枚からどうぞ。二日目は、まず前の日のカードを見せて、「これ、何ていう字だっけ」と聞き、もし正しく読めたら、「よく読めたね」とほめてあげ

てから、「それじゃ、今日はもう一つ、新しいカードに挑戦しよう」と言って前日と同じようにお母さんが先に読み、子供がつづいて読みあげるようにします。

こうして七日間つづけると、前日までの漢字として質問するカードが六枚、新しく覚えるカードが一枚という状態になります。八日目以後は、最初の一枚を除いて、“前日までの漢字として質問するカードが六枚、新しく覚えるカードが一枚という状態をつづけていきます。つまり、新しい漢字を一日目で覚え、六日間くり返し読んだら、それで「一字卒業」とするのです。

親子で漢字ゲームを楽しむ

漢字をある程度まで覚えてきたら、漢字ゲームを取り入れるといいでしょう。ゲーム的な要素が入ると、漢字への興味がより一層深まります。家族の^{だんらん}団樂にもぴったりで、漢字の学習がますます楽しく、好きになるはずです。ここでも大切なのは、親にしても家族にしても、子供のために付き合っているのではなく、自ら、やりたくてやっているのであり、大いに楽しんでいるという姿勢を示すことです。

次に、石井式漢字教育の教室などで行われている「漢字ゲーム」をいくつか紹介してみます。これらを参考に、親子で新しいゲームを考えて、いろいろ試してみるのも楽しいでしょう。

かるた遊び.....普通のかると同じように、漢字カードを表向きに広げ、読み手が読みあげたカードを取っていきます。読み手は、親と子供と交替で担当するようにします。

お店屋さんゲーム.....魚、野菜、果物などの名前を漢字で書いたカードを表向きに広げます。「魚屋さん」と言ったら、順番に、魚屋で売っているもののカードを一枚ずつ取っていきます。

カード抜き.....同じ漢字カードを二枚ずつ用意し、その中から一枚だけ抜いておきます。トランプのババ抜きの要領で同じカードを合わせていき、最後に一枚残ったほうが負けです。

神経衰弱.....同じ漢字カードを二枚ずつ用意します。トランプの神経衰弱と同じ要領で、同じカードを探していきます。

反対語神経衰弱.....「遠い 近い」「高い 低い」「大きい 小さい」など、反対語や対義語となるカードを一組ずつ用意します。「近い」のカードを開けたら、「遠い」のカードを探すようにして遊びます。

ビンゴゲーム.....漢字カード九枚で一組のものを、二組用意します。親と子供でそれぞれ、縦横三枚ずつ、好きなように並べます。先攻と後攻を決め、先攻から順番に一枚ずつ裏返すカードを言い合い、先に縦、横、斜めのいずれかのラインが三枚裏返ったほうが勝ちです。

パズル.....野菜なら野菜とテーマを決めて、野菜の名前を書いた漢字カードを用意し、それらを^{はさみ}鋏で二つに切ってばらばらにしておきます。それを正しく組み合わせて再び完成された漢字にします。

漢字かな交じり文の絵本や読本、古典を音読する

漢字を生きた言葉として定着させるには、名文を読むのがいちばんです。漢字かな交じりで表記された絵本や読本、古典を、いっしょに字面を見ながら、読み聞かせてあげましょう。

そして、子供が漢字を覚えるようになったら、今度は、子供に読んでもらいます。そのあとで必ず、「上手に読んでくれて、ありがとう。面白い本だよ」「読むのがうまくなったね。昔の子供も、こうやって、親につづいて読みあげていたんだよ」などと、ほめるとともに、感想を述べたり、お話ししたりしてください。子供の励みになり、本がますます好きになること受け合いです。

なお、家庭で漢字教育を行うにしても、専門家に指導してもらう時間も欲しいという方には、この石井式を実践する「石井式能力開発教室」や、「母と子の漢字教室 通信指導のコース」などを活用していただくことをおすすめします。